

世界の経済金融情勢

慶應義塾大学総合政策学部教授

白井^{しら}い さゆり

- * 世界経済を襲った三つのショック
- * 日本はまだコロナ前に戻っていない
- * 高インフレの欧米と低インフレの日・中
- * 各国のインフレ率をどう見るか
- * 各国中央銀行の抱えるジレンマ
- * 交易条件の強さも反映されているドル高
- * 日銀の金融政策の変更はない
- * 欧州のインフレ要因はすべて供給サイド
- * アメリカの対中貿易赤字は過去最大
- * 日本のインフレ予想の特色



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

本日は慶應義塾大学の白井先生においていただきます。もう何回かお見えになっておられますが、先ほど伺いましたらコロナ感染症以降に観客のいるところでは初めてだというお話でございました。講演会のほうは大分正常化してまいりました。今日は金融の話を中心にお話しいただきますが、お渡ししたタイトルでは「日本」が入っておりませんが、今日は日本を含めてお話をいただけるということでございます。慶應義塾大学ご卒業後、国際通貨基金、慶應義塾大学助教・教授、日本銀行政策委員会審議委員を経まして、現在は再び慶應で教鞭をとっております。国際関係にも非常に詳しい方でございますので、今置かれている世界の経済、

金融の状況、それからその中で日本がどうなっていくのか、今日はじっくりお話を伺いたいと思います。

それでは白井先生よろしく願います。

世界経済を襲った三つのショック

白井 皆さんこんにちは。（拍手）よろしく願います。

今ご紹介いただきましたように皆さんは日本の動向、とくに総裁が交代する日本銀行の金融政策にご関心があるかと思えます。またアメリカなど多くの中央銀行が政策判断で非常に悩んでいます。中央銀行が直面している難しい状況についてもご説明していきたいと思えます。ですので、タイトルは「世界の経済金融情勢」